

2018年度事業報告書

(2018年9月1日から2019年8月31日まで)

核医学診療推進国民会議

1 事業実施の概要

政策提言に関する活動、広報・啓発活動を中心に活動した。内容としては、議員との意見交換、一般向けのパンフレットの作成・配布、HP上での公開等を行った。広報・啓発活動については企画委員会を発足し、各プロジェクトごとに進めることを決定した。また、当会の認知度を高めるための広報活動を積極的に行い、当国民会議の活動に参画する会員の数を増やした。

2 事業の実施に関する事項

(1) 政策提言に関する活動

① 要望書の提出

関連情報の収集を適宜行っているが、要望書の提出等は時機を見て行うべきであると判断し、今年度は要望書の提出を行っていない。

② 国会議員への情報提供

2019年4月15日に絹谷会長、眞島副会長、大井副会長が自由民主党 厚生労働部会 副部会長 岡下昌平衆議院議員を訪問し、政策秘書である伊地知 理美 氏と面談、富士フイルム富山化学が臨床治験を実施中の悪性神経内分泌腫瘍 (NET) に対する Lu-177 PRRT (Lutathera) の早期承認に関して、国内の核医学治療環境整備について意見交換を行った。

(2) 患者のアンメットニーズの調査・把握に関する活動

日本核医学会のワーキンググループや委員会で行っている患者のアンメットニーズに関する調査活動に協力した。

(3) 啓発・広報活動

① 活動状況の公開

ホームページを通じて、活動状況を適宜公開した。

② シンポジウム・市民講座の開催

2018年9月2日、がんサポートコミュニティー主催の「第16回ペイシェント・アクティブ・フォーラム」に共催として参加し、絹谷会長による講演「核医学ってなに？がん診療における役割」が行われた。また、パネルディスカッション「がんの治る日は近いか？—個別化医療の現実」では会長の絹谷、副会長の大井 賢一・眞島 喜幸が参加し、意見を交わした。

2019年4月28日、日本核医学会春季大会中の特別講演会にて大井副会長が講演「共通の敵“がん”とどう向き合うか？—新・核医学への期待—」を行った。

③ 一般向けコンテンツの作成

昨年度作成したパンフレット「人と放射線のかかわり」を学会や講演会等のイベントで配布した。また、内容についてホームページで公開した。

また、事務局と賛助会員企業による企画委員会を発足し、i) 核医学に関する一般向け冊子、ii) 広報誌、iii) ホームページ上の用語集 の検討を開始した。

(4) 核医学診療推進コミュニティの形成活動

① 会員登録の促進

ペイシエント・アクティブ・フォーラムや学会、講演会等のイベントにて、チラシやパンフレットを配布し、広報活動を行った。また、絹谷会長が参加した学会やイベント等においても広報活動を積極的に行い、会員数を増やした。特に一般会員の会員数増加が大きく、患者サイドからの参画が増えているものと思われる。

会員種別	2018.8.31 時点	2019.8.31 時点
正会員	66 名	76 名
一般会員	80 名	150 名
賛助会員	8 社 1 名	8 社 1 名

② 他団体との連携

2019年7月2日にNPO法人腺友倶楽部 理事長 武内 務氏と絹谷会長が面談し、情報共有を行った。PSMAを標的とした前立腺がん核医学治療の早期国内導入に向けて、活動連携する方向で話し合いを行った。

(5) その他

① ホームページ・会員の運営管理

ホームページの運営（最新情報のアップ、保守作業、SNS アカウントとの連携）及び会員管理（会員情報の管理、会費の徴収等）を行った。

② 会員総会の開催

2018年9月14日に（公社）日本アイソトープ協会にて会員総会を開催した。

③ 理事会・会合の開催

2019年4月28日に虎ノ門ヒルズフォーラムにて理事会兼会合を開催した。

2019年7月23日に（公社）日本アイソトープ協会にて企画委員会 kickoff meeting を開催した。

以上